

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6
 サンコート新千葉102号
 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263
 発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
 2014年10月10日発行 第74号 1部100円 <http://chiba.geki.jou.org/>



「子どものやりたい・やってみたい」があふれ出す、舞台芸術の力！

「プロの講師と出会い、わくわくドキドキするような子どもたちの興味や関心を引きだし、自分でもできる！という達成感や、またやりたい！という満足感を得る一日を――

今、子どもに不足しているものは

近年、特に「子どもの自己肯定感」が低くなってきていることを、活動を通じて実感するようになりましました。その要因のひとつとして、子どもの体験不足と、他者とのコミュニケーションにより自分に自信を持つ機会や、信頼関係づくりを体感して学ぶ機会が少ないこと、伸び伸びと安心して自分を表現し、心から楽しむ場が少ないことがあると考えています。

子どもは多様な体験を通して心身ともに豊かに育っていきます。なかでも舞台芸術との出会いは豊かな感受性を育み、豊かな人間性に影響を及ぼします。千葉県内では、子どもの舞台芸術との出会いが少なくなっているのが現状です。

子どもや芸術文化に関わる団体が協働して実現

公益財団法人千葉県文化振興財団と共催で「子どもの舞台芸術体験ひろば2014 in ちば」を、8月25日(月)夏休みの一日、会館まるごと使って、5企画10回を実施。300名を超える参加となりました。

プロのパフォーマーを講師に、舞台芸術を活用した体験活動で「子どもの心を開き、ワクワクドキドキする」この事業をすすめるにあたっては、活動の違う子どもたちのNPO団体と一緒にプ

ロジェクトを立ち上げました。課題を共有し、それぞれが持っている活動の場やネットワークにより、千葉市内の学校への広報周知や近隣の学童へ働きかけをしました。この事業の楽しさや目的等を、自信をもって語ることで、より多くの子どもたちに届けることができるようになりましました。また、千葉県文化会館全会場を使って行うことで、子どもたちが安心してプログラムを楽しむことができました。

プロジェクト会議の中で、子どもにかかわる大人として次のことを共有しています。
 ＊子どもの自主性や社会性が身につけられるよう、プロの講師とともに子どもの姿や声、変化に注目。
 ＊「子どもにとつての最善」とは何かを考え、子どもの真の体験になるよう創り上げる。

プロの講師との出会い

子どもが体験するプログラムは、子どもが自身自身で選びます。そして決して長い時間をかけてやるものとは違い、その日一回きりの出会いであることがほとんどです。もしかしたら、一生で一回きりとなるかもしれません。私たちは、プロの講師によって子どもの「やってみたい」「あなりたい」の気持ちがあふれ出す光景を、驚きと感動をもって見てきました。子どもの成長過程で、どんな大人と出会うか・出会うせるかは、とても大切だと実感しています。

この舞台芸術体験ひろばはプロの講師との出会いにこだわっています。プロは、今の自分に甘んじることなく芸術性を磨き研鑽を常に積んでいます。何があっても動じない。しかし、プロ故に謙虚であり、状況に応じて対応でき、子どもへの視線も上からではなく見守っています。何よりも子どもたちへ成果を押し付けたい、あくまでもそれぞれの子どもたちのプロセスを大事にし、子どもと向き合う姿勢は見事です。

「ただ何かを体験した」「技を教わった」に終わらない、プロの講師との出会いによって、もっと子どもの心の深いところで、自分だけの宝物のようなものを獲得する場になっています。

積み重ねて大きく進化

5年を積み重ね、子どもたちにとつて、真の体験の場となってきました。そして私たち大人にとつても、あらためて「子どもにとつてよい出会い、体験活動とは」を実感する場となり、プロジェクト参加団体とともに「子どもの体験ひろば」は大きく進化をしています。

*これまでの参加 のべ2,902人

実施年月	実施場所	のべ人数
2009年 2月 10月・11月	千葉市 船橋市	758
2010年度 11月	千葉市 八千代市	587
2011年度 8月 12月・2月	千葉市 流山市	580
2012年度 8月 11月・1月	千葉市 八千代市 流山市	625
2013年度 8月・11月	千葉市 八千代市	352



講師からのメッセージ

千葉県子ども歌舞伎アカデミー指導者
帆之丞

歌舞伎にふれる、知るよい企画だと思います。歌舞伎と聞くと特別な物、難しいものと思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、もともとは身近な庶民のものなのです。「白浪五人男もテレビのゴレンジャーも五人でしょ？一人ひとり名乗るでしょ？今とつながってるんだよ！」と子どもたちに言うと、とても身近に思ってもらえます。「昔は歌舞伎をやる舞台もいっぱい、やる人もたくさんいて、テレビがないから忠臣蔵みたいなニュースも歌舞伎で伝えたんだよ！」ということをわかってほしいですね。

歌舞伎は敷居の高いものではないのです。確かに初めてやる動きや所作が難しいのは当たり前ですし、キツイことも必要です。でもこれから子どもたちには、日本語の美しさにふれてほしいですし、日本文化に興味をもってもらえる機会がたくさんあるようにと願っています。

子どもの舞台芸術体験ひろば 2014 いちば

— 関わった大人が
みた 感じた 考えた —



歌舞伎をやってみよう

講師：帆之丞 藤波靖子
【千葉県子ども歌舞伎アカデミー指導者】

内容

アカデミーの子どものたちの「白浪五人男」の演技をみる、講師の歌舞伎の文化についての話し、アカデミーの子どもたちと一緒に演技する（女歩き・男歩き・座り方・立ち方・すり足・殺陣（形）・いろいろな売り

子どもの感想

- ・男のかまえがむずかしかったです。けど全ぶ楽しかったです
- ・とてもできない体験ができてよかったです。とっても歌舞伎のえんぎをする人になるにはとても苦労するんだなと思いました
- ・今までもかまぶきを見たのははじめてで、自分でもやれたのははじめてで、とてもうれしかったです

誰もみたくない生きものをつくらう

講師：永野むつみ 大澤直
【人形劇団ひばたあむ】

内容

自分で多色のきれいな紙封筒から使いたい紙封筒を選び、生きものの体を作る。多色の紙テープや色画用紙・テープを色々な物を付ける。ひとりひとり話がしてみんなで見せ合う

子どもの感想

- ・見たことのない生きものがほんとにいいとのおもいました
- ・工作が大すきで、いつも家で工作していました。
- ・いっぱいあそんでいっぱい作ったのでたのしかったです
- ・やりたいとおもっていたけど、今回やってみることができた。おもったよりも楽しくて、うれしかった



開催日時：2014年8月25日(月)

10:00~15:30

開催場所：千葉県文化会館（大ホール、小ホール、大練習室、中練習室、第1・3会議室）

参加者数：302名
（講師8名、助手10名、当日スタッフ46名、プログラム参加者238名）

講師からのメッセージ

人形劇団ひばたあむ

永野むつみ

体験ひろば」が続くことで私の出会った素敵な事

今年の素敵な出会いを二つ

一つは学童の先生から前もつてのご挨拶をいただきました。担当のお子さんが障がいを持っているらしく、始めはそばにいていましたが、「お任せください」と申し上げると了解してくださったようで、つかず離れず、それは見事にサポートされていました。私たち演劇人は障がいのあるなしに構わず一人の個性的な参加者として配慮はしますが、特別視しないということ。常にそばにいる方は、障がいにのみ目を奪われることが多く、しばしば、できないこと、できないことを決めてしまっている場合がありますが、私たちは「初めての出会い」という事実を最大限生かして新鮮に直に出会うことを大事にしています。しかしながら付添の方との信頼関係が作れないと、付添者が出会いの障がいになる場合があるのです。事前の連絡で、アイコンタクトで了解しながら進めることができ、本当に幸せな出会いになりました。

二つ目は、去年も参加した、あの喧嘩した姉妹です」と声を掛けられ、少し遅れて来た姉妹を思い出しました。「少女が先に紫色の紙封筒を見つけ、わ」と声を上げました。と、すすと姉の手が横からでて先にとつてしまい、最後の1枚でしたから妹は取り戻してくれとお母さんのスカートのすそを引く張り、お母さんは二人をかわるがわる見ながら困っていました。私はすぐにお母さんは自分の封筒を選んですぐに作り始めなさい」と言い、妹には「欲しいならお姉さんにかえて」と言えはいんじゃない？」と。

スタッフから

千葉中央おやこ劇場
大塚るい

私たちは、子どもたちの人生の選択肢の幅を広げるために子どもたちをプロの芸術家の方々と出会わせなければならぬ立場にいます。

プロの方は、プロになるまでプロで在り続けるために費やしている時間、努力があつてこそプロになっているわけで、そういう方たちは、子どもたちの日常生活だけでは接することが難しい人たちだろうと思います。

舞台体験ひろばの時間のなかで、多種多様な「すごい大人たち」と直接かかわり子どもたちが「楽しい」「もつとやってみよう」「こんなことができるんだ」と思うことがやがて自分の進路（人生）を考えると役に立ってこれたらいいなと思います。

共催

公益財団法人千葉県文化振興財団から

県内で、積極的に活動しているNPO法人子ども劇場千葉県センターとの連携も今年で4年目になりました。文化会館ではNPOなどの団体と連携し相互に専門性や得意とするノウハウを共有することにより、文化芸術の幅の拡充を図ることをめざし、また子どもたちが将来の文化芸術の担い手になることを期待しているものです。

NPO法人子ども劇場千葉県センターとの協力関係を築くことにより、たくさんの子どもたちに足を運んでもらい、文化会館を知ってもらふ事業としての成果に期待してきました。子どもがプロの舞台芸術家と出会い、本物の芸術体験に親しむ場の提供をとおして子どもたちの記憶に残る事業となり文化会館を身近に感じ、舞台や照明にも興味をもつてくれる子どもたちが出てきたことに手ごたえを感じています。



けんぶん探検ツアー

講師：櫻井宏則 神崎敏幸
【千葉県文化会館職員】

内容

屋上にて見学、大・小ホールでの緞帳や袖幕等のup/down操作の説明、照明効果機器での照明体験（小ホール）、マイクを使って舞台で歌おう（小ホール）、効果機器での体験

子どもの感想

- ・ぶたいのうらがらがこんなふうになつていなるなんてしりませんでした。ライトやもようがこんなところからでていたんだとおもいました。
- ・いろんなことがしれたのしかなかったです。照明がとってもきれいで、わくわくしました。色をまぜられることにびっくりしました。

マジックで遊ぼう

講師：マギー隆司
【ともしび音楽企画】

内容

割りばしマジック、玉がコップを抜けるマジック、引いたトランプの色が変わるマジック、ストローが飛び出すマジック、ロープ抜けのマジック

子どもの感想

- ・マジックは不思議だなと思いました。マジシャンになりたいと思います。また、いきな今日来てよかったです。また、いきないます。
- ・すごくうれしく、おもしろかったです。またこんど学んで友だちおうちのの人にみせたいです。またやりたいです！！
- ・ありがとうございます。
- ・おおきくなつたらマジシャンになれるかな。



いっしょにパントマイム

講師：チカパン
【マイムプラネット】

内容

エスカレーターの下り上り、チカパンのパントマイム、スクリーンを使ったパントマイム、4グループにわかれてあてる、花火のパントマイムをみんなですつくる

子どもの感想

- ・たのしくて、少しむずかしかったけどパントマイムはこういうものだったから楽しかったです。
- ・今までで一番楽しいいっしょにいじゆつができました。来年もやりたいです。
- ・ないけどあるみたいに見えてふしぎだった。楽しかった。
- ・パントマイムはいろいろあったけど楽しかったです。

これは二人の問題。ふたりで解決し「たらしい」姉は気にしながら作り始め、お母さんもどうしたらいいのかわからないという顔をしながら、スカートに泣き止まない妹をぶら下げながらしぶしぶ作業にかかりました。少し間を置き、私がいろいろ誘ってみましたが一方向にスカートから離れません。そこでシユレッターを妹の近くでやつてみせると興味を示し、「やる？」と聞くとお母さんの手を取り上に自分の手を乗せハンドルを回しました。「もつとやる？」と違う紙を持つていくと今度は母の手を払いのけ自分一人でやり始め、最終的には他の色の紙封筒にそれらを貼り付けはじめました。ワークが終了してからお母さんが涙ぐみながら姉妹がもめたとき母親の自分が何とかしなければ、とこれまで思つていたけれど何とかなるんですね。「私は、そうです。姉妹の喧嘩には極力口を出さなくていいんじゃないかな。なぜなら最初は紙封筒の取り合いだけけれど、途中からお母さんはどつちが好きなの？」というふうな喧嘩の質が変わつている。それに乗つてくるやダメじゃないのか」というお話をしました。とここまですが去年の話。

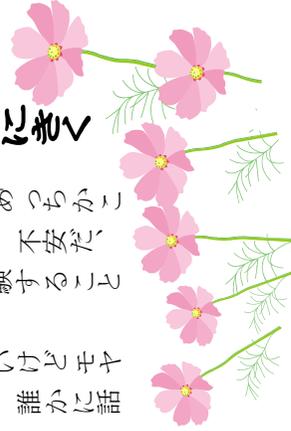
今年は「妹が自分はこのワークに行くから、お姉ちゃんは何のにして」と言つて二人できました」とのこと。このワークは誰も見たことのない生き物を作るワークでありながら、親御さんと育ちの話をしたりする場にもなつていくということ、それが一回きりではなくこうして継続していることで、昨年と今年の違いなどを確認してもつと幸せな気持ちを持ちあえる空間になつているということの評価したい。主催し運営してくださる皆様に感謝です。

「話をする・話を聴く」ことで「つながる瞬間」がある！

チャイルドライン・ママパラインの最前線にいる受け手ボランティアにきく

子どももおとなも生きている限り、毎日いろいろな事柄、問題に直面し、分かれ道で「あちかこちか」と迷い、選択して生きています。その度に、楽しい、苦しい、悲しい、情けない、不安だ、腹立たしい・・・といった感情が心にわき起こってきます。それは誰もが多かれ少なかれ経験することで、それへのつきあいかた、対処の仕方もそれぞれでしょう。

その中で、今、心の中がいつばいになり爆発しそうなる時、落ち込んだ時、何かわからないけどモヤモヤする時、あるいは、逆にちよつといいことがあつたときも、誰かに聴いてもらつたり、誰かに話すことで、フツと肩のちからが抜け、スーッと気持ちが軽くなることがあります。



気持ちに寄り添って共感的に聴けた時、更に「今日は聴き切った」と思える時の美感はどうな感じですか？

■あつたかくてほつとする。あつちとこつちでつながっている感、それは実にシンプル。子どもの場合は急に「ため口」になって「そうなんですよ！そうなんですよ」と言つたりします。

■電話をかけてきた人が、本当の気持ちを吐露してくれている、それを聴かせていただいている、つながっているあたたかさを体験できます。

■いつもではないけれど、今の瞬間、心がほどけた！と感じる時があります。かけ手と共鳴できた時、傾聴の醍醐味のような感じがあります。

◆「**きく**」には**三つの「きく**」があります。◆

- ① 聞く (hear) ・音が入ってくるきく
- ② 訊く (ask) ・知りたいことを相手に尋問する
- ③ 聴く (listen) ・相手の気持ちに寄り添って聴く。話の主体は相手にある。

チャイルドラインやママパラインのきくは③の聴くです。

どんな電話がかかってくるのでしょうか。開設以来、内容の変化や最近の声の傾向は？

チャイルドラインの場合

◆学校内の人間関係、特に友達関係の悩み。避けられている、「ぶらられている」「いじめられている」という言葉がでてくること多いです。

◆思春期の性の悩み、居場所やよりどころがない孤独感。今の言葉でいうと「自分は“ぼつち”だ！」という電話はずつと変わらず受け続けています。

◆親子関係はちよつと変わつてきたように感じる。親に気を遣っている傾向があり、例えば、これまで親同士が子ども同士の関係をこわすまいとしていたが、子どもが親同士の関係に気を遣つていたりします。離婚も特別なことではなく、子どもの方から「離婚しているの」という言葉がさつと出てきます。

◆家庭の日常に関する内容が少なくなり、関係性が薄くなつていくように感じます。親には相談したくないということが多く、親戚のおじさん、おばさん、地域の人は全くといってよほど会話に出てきません。共働きが増えていることで学童保育の話、養育者としてのおじいちゃんおばあちゃんの話が出てきます。

◆ITとのつきあいかたでのトラブルが多いです。特にラインのやりとりが子どもにとっては会話そのものになっています。ラインでの友達との会話はとても大事に思う一方で「自分がどう思われているか」を気にし、窮屈なものになつていくと感じます。

◆子どもたちはトモダチ関係を互いに察しながら、地雷を踏まないように神経をすり減らしているように感じます。ラインではスタンプでのやり取りが会話になつて、これは子どもの気持ちの解消になつていない。むしろ子どもの感情や言葉を奪つています。

◆“ぼつち”だと思われたくない・自分ははずされているみたいと言いながら、それでも親友と呼んだり、親友だから話せない、と揺れているのです。親友がいることは、子どもにとって大事なことです。

ママパラインの場合

✿離乳食、トイレトレーニング、断乳、言葉のおくれ等、健康や発音、しつけに関してうまくいかないことへの心配や不安などは、開設以来ずつと受けています。

✿子どもが自分の言うことをきいてくれなくて毎日イライラする。つい子どもにあたつてしまふ。子どもがかわいと思えないなど、乳・幼児期を乗り越える時の、先の見えない悶々とした気持ちを訴える電話も開設以来受けています。

✿幼稚園や小学校でのママ友との関係づくりや、夫、舅姑、実母への不満など、誰にも言えず胸いつばいになつていることを、吐き出す場になつています。

✿孤立感を訴える電話は、開設以来ずつと受けています。孤独は大丈夫ですが孤立は辛いことですね。

✿ウツを抱えている方からの電話が増えています。ここ数年の特徴です。

✿小学生・中学生の子どもをもつ親からの電話が増えました。子育ての悩みは尽きることなくあるものですよ。まわりに相談できる人もいない様子。

❖ 社会不安を背景にした、複数の問題がからみあっていて、解決の出口が見えないような、重い内容が多くなりました。

聴くことでの美感 苦勞 不安は

▲子どもも大人も電話をかけるとき、すごく勇気がいると思うのですね。

▲ラインでのトラブルは、ラインとかアプリとかの言葉が苦手とか、わからないと思わないようにして、むしろ「子どもの困った感」に寄り添って聴いていくように努めています。困っている子どもの気持ちはどうなんだろう、ラインにこだわる気持ちは何なんだろう」と聴くようにしています。

▲電話をかけてくる子どもの気持ちは美に繊細。そして気持ちや感情をうまく言葉で言えなかつたりします。よかれ」と思つて「一般的なことを言うとシャットアウトされることもありますね。

▲何か怒つていて、いろんな話を一気にして何がなんだかわからなかつたけれど言つてすつきりした「グダグダ言つてすみません」とストンと終わった時など、きつとよかつたのではないかと感じられます。

▲ママパラインでは日頃から かけ手が8、受け手は2くらいにして、受け手の言葉は控えましょう」と心がけているのですが、グチも含めていっぱい話してくれた時は「対し」くらいだつたかもしれません。

▲一気に話す人、ぼつりぼつりとだんだん言葉がでてる人とトーンがちがいます。厳しい内容の話も、話し方が機関銃トークの人、泣いている人・・・いろいろです。応える人は「わかつたのですね」当然だよ」と相手のペースについていくようにしています。

▲この受け方でよかつたのか、と反省することもあり

ます。時に「何か役にたちたい」というおもいがアドバイスになることも。アドバイスはこちらが思ったことを押しつけることになりがちですね。

▲かけ手の気持ちを受け止めて、そのまま共感的に返してあげると「聴いてもらった感」があるようです。

子どもとコミュニケーションをとるために
～子どもに関わるおとなが手に入れたいままなざし～

- 先回りをしない
- 子どもの育ちには無駄に見える時間やスキマも大事
- 子どもを見すぎない（隠れ処を求めている子どもたち）
- 比べない
- 完璧を求めない
- 正しいことは控えめに言おう
- 「世間ではふつう」の物差しをもちこまない
- がんばれと声をかけるより、「がんばっているね」
- 大人の弱さが透けて見えていることでも大事 “ゆる親”のすすめ(ちよつとずつこけた親)

9/7 チャイルドライン学習会 西野博之さん(かわさきさきちヤイルドライン代表・精神保健福祉士)の講演会から抜粋

日常生活で「傾聴」の力を活かす

★夫婦間でも相手は何を考えているか、言葉にしないとわかりませんよね。そうだったの」とか「それは大変だったね」と言つたり言われたりすると、わかってくれた」と感じられます。家族や夫婦の間でも、表現していくことが大事だな」と感じます。

★「ママにおこられた!」と訴える孫に「どうしておこられたの?」ときいても言わなかつたりします。私の言葉かけは「怒られた原因を訊く」態度だつたかもしれない・・・まず先に、ママにおこられた今の気持ちを聴いてあげたら、話してくれたと思います。

★子どもに「自分のことをわかつてくれない!」と言われ、私は「どうしてお母さんのいうことがわか

らないの!」ということがよく起きます。こんな時、まずは子どもの言い分を聴こう」と気づけば、すれ違ひもなくなるかも。親はちよつとずつこけた「ゆる親」くらいがいいと、研修会の講師も言っていましたね。

傾聴の文化を拓ける講座」が好評です

● ワーク中心の参加型の講座です。自分のことを聴いてもらった感」は日常あまり経験したことがないようで、聴いてもらった満足感があつたのではないかと思います。自分と子どもの会話は「訊く」だつたと、気づかれた方もいます。

● 受講生から「こういう言葉かけ、聴き方をされたらどんどん話したくなつた」聴いてもらつて気持ちいい」子どもの話しもちやんと聴いてあげたい」と感想に出ていますね。

● 日常生活のいろいろな場面で、いつも傾聴しなければならぬか、ということそんなことはできないですね。子どもや養育者の様子や表情から、今、傾聴だな!」と察することや、感じられる人が多くなれば、ギスギスした人間関係が改善されて、もつと懐の深い社会になりますね。

次頁 岡田

千葉県児童相談所における 相談対応件数

- ・平成25年度は、平成24年度に比べ千葉県・千葉市で598件増
- ・千葉県のみでは600件増
- ・平成25年度の相談対応件数は全国3位
- ・虐待の種類は、心理的虐待が1,953件(43%)と一番多い。言葉による脅し、無視、きょうだいの間の差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるうなど
- ・主な虐待者は実母2,349件(51%)、次いで実父1,687件(37%)



「傾聴の文化を拓ける講座」の内容を知りたい方、ご希望や申込みは、子ども劇場千葉県センターまで

情報あれこれ



<カンパイヤリティ>ちばのWA 地域づくり基金

参加店舗が提供する「カンパイヤリティメニュー」を注文すると、販売額の一部がチャリティ=寄付になるキャンペーンです。2014年9月1日～11月30日

「病氣と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業」協力 23 店舗とメニュー

【千葉エリア】

- ◆村さ来千葉銀座店
メニューと寄付額:「角ハイボール」387 円の内 20 円を寄付
 - ◆カフェ呂久呂
メニューと寄付額:「ホットモカジャワ」600 円の内 20 円を寄付
 - ◆マジックバーシカケ
メニューと寄付額:持込みプレゼント分 1 件につき 100 円を寄付
 - ◆銀寿司
メニューと寄付額:「生ビール」700 円の内 10 円を寄付
 - ◆ナポリピッツァの店 Zao
メニューと寄付額:「おすすめピザ」1,150 円の内 70 円を寄付
 - ◆亀八庵
メニューと寄付額:「おすすめ天せいろ」1,350 円の内 10 円を寄付
 - ◆壁の穴西千葉
メニューと寄付額:「日替わりランチ」1,080 円の内 10 円を寄付
 - ◆ホットドック幕張カーキーズ
メニューと寄付額:「ビール」550～650 円の内 50 円を寄付
 - ◆炭火烧ともろう Jr.
メニューと寄付額:「牛ハラミ」680 円の内 100 円を寄付
 - ◆もじょい有限会社幕張本郷店
メニューと寄付額:「フライパンホルモンマーボー豆腐」431 円の内 100 円を寄付
 - ◆イタリアンレストランキャプテンズクック
メニューと寄付額:「ピザマルゲリータ M サイズ」970 円の内 30 円を寄付
 - ◆季節料理鮮
メニューと寄付額:「本日のおすすめ盛り」3,100 円の内 100 円を寄付
 - ◆炙りや幸蔵
メニューと寄付額:「ハイボール全品」378～594 円の内 10 円を寄付
 - ◆コミュニティカフェフラット
メニューと寄付額:「ぶりんせすプリン」360 円の内 10 円を寄付
 - ◆ル・ダルジャン・デュ・ソレイユ
メニューと寄付額:「おひさまシュー」190 円の内 10 円を寄付
 - ◆よ志の
メニューと寄付額:「天ぷら盛合わせ」1,500 円の内 50 円を寄付
 - ◆レストランロス・アンジェルス
メニューと寄付額:「お子様プレート」650 円の内 10 円を寄付
- #### 【東葛エリア】
- ◆アジアン食堂&雑貨屋もののわ
メニューと寄付額:「A ランチ(バインミーセット)」「B ランチ(フォーセット)」「C ランチ(日替わりセット)」800～900 円の内 20 円を寄付
 - ◆オモニキムチ
メニューと寄付額:「ランチセット」1,000 円の内 20 円を寄付
 - ◆カフェぷ・れ・い・す
メニューと寄付額:「ブレンドコーヒー」360 円の内 10 円を寄付
 - ◆炭火烧肉&ホルモン伝次
メニューと寄付額:「生マッコリボトル」1,500 円の内 100 円を寄付
 - ◆コロッケの丸屋
メニューと寄付額:「コロッケの3種セット+メンチ」400 円の内 40 円を寄付
- #### 【北総エリア】
- ◆地魚料理味郷(みさと)
メニューと寄付額:「九十九里はまぐり蒸し」750 円の内 20 円を、「九十九里ながらみ」700 円の内 20 円を寄付

<READYFOR?> 目標達成しました!



多くの皆様のご支援に心より感謝いたします。

クラウドファンディングサイト「READYFOR?」(レディーフォー)を活用し、6月27日(金)から8月6日(水)までの40日間、【長期入院の子どもたちが笑顔になる贈り物をしたい!】プロジェクトへの寄付を募る活動をweb上でを行い、目標を達成しました。

寄付額 317,000 円(目標額 300,000 円)

実績と今後の計画

実績

実施場所:千葉県子ども病院 外来ホール 病棟
 実施日時:2014年8月26日(火) 15:40～17:40
 プログラム名:「びりとブッチーのクラウンギンシアター」(蒼い企画)
 参加者数:総数 270 人
 (子ども 136 人 保護者 92 人 病院関係者 42 人)

計画 実施場所:千葉県子ども病院 病棟

実施日時:2014年11月4日(火)



子ども病院の子どもたちとご家族から届いたサンキューレター



ご支援いただいた方々へ感謝の気持ちを込めて報告書、チャリティグッズをお送りしました。

- *手作りハワイアンキルトポーチ
- *手作りブックカバー
- *サンキューレター

<行政訪問>



8月末から、毎年行っている千葉県内54市町村の行政訪問が始まりました。今年はチャイルドラインのカードを42市町村の小学校の子どもたちへ、さらに合わせてママパラインのカードも保護者へ届けたいと教育委員会を訪問し、教育委員会を通じて子どもと保護者への配布を依頼しています。これまで訪問したすべての教育委員会で快諾していただき、たくさんカードを車につんで千葉県内を力走中です。

<訪問した市町村>

館山市・南房総市・鴨川市・君津市・木更津市・富津市・鋸南町・大多喜町・御宿町・勝浦市・いすみ市・東金市・山武市・横芝光町・東庄町・銚子市・旭市・匝瑳市・神崎町・香取市・多古町・芝山町

<これまでに配布したカード枚数>

チャイルドラインカード 53,726 枚
 ママパラインカード 44,376 枚 ポスター 330 枚

今後、団体正会員の皆さんが活動している市へも訪問します。ごいっしょによりしく願います!

お店訪問記

皆様、参加協力店へどうぞお立ち寄りください!

コミュニティカフェフラット

ゆっくりとくつろげる空間で、いつも地域の方々で満席状態。ランチは体にやさしい野菜たっぷりで大満足!食後のデザートがチャリティメニューの「ぶりんせすプリン」ハチミツをかけて食べるとうGOOD!オーナーはNPO法人を運営している熱い心を持った方でした。

よ志の

常連客の方が「おいしくてしょ!」と声をかけてくれる家庭的な雰囲気のお食事処です。ご店主が「来年やるなら、また声をかけてくださいね!」との温かい言葉お返しご留め!



館山まるごと博物館～文化遺産を活かした教育とまちづくり

NPO法人安房文化遺産フォーラム 事務局長 池田恵美子

私たちは、安房地域にのこる戦争遺跡をはじめ、有形無形の多様な文化遺産を活かした教育支援とまちづくり活動に取り組んでいます。私がこのような、学校外の教育を志したのは12歳のことでした。学校生活に窮屈さを感じ始めていた頃、ハワイのジュニアサマースクールに参加する機会に恵まれました。初めは不安で泣いていた私ですが、青い空と海、白い雲と砂浜、爽やかな風、しがらみのない仲間との出会いによって、それまで経験したことのない開放感を味わいました。本当の自分に出会えたという感覚でした。

ヤシの木陰で円陣を組み、ハワイの自然・歴史・文化を学びました。それなら、私の住む館山ってどういうまちなんだろう、という興味が湧きました。参加させてくれた両親への感謝も生まれました。学校で学べないたくさんのご縁を得た私は、多くの人に同じような体験をしてほしいと心から思いました。

そして、最も衝撃的だったのが真珠湾攻撃の歴史でした。なぜわたしの国はこんなに優しく素晴らしいハ

ワイを攻撃したのだろうか、なぜ人間は戦わなければならないのだろうか。12歳にして、哲学的な宿題を抱えてしまいました。これが私の活動の原点です。

館山の戦争遺跡の多くは、「近代史を理解するうえで欠くことのできない重要な遺跡」と位置づけられています。本土決戦に備え、花作り禁止令が出された時、命がけで花の種を守った農婦がいました。古ハンデルが刻まれた「四面石塔」は、秀吉の朝鮮侵略から三十三回忌に戦没者供養と世界平和をこめて建てられたと考えられています。住宅街の路地に残る「サイカチの木」は、元禄地震のとき登った人が津波の難を逃れたと語り継がれており、葉が食用・実が洗剤・トゲが解毒剤になるといいます。

「館山まるごと博物館」のスタディツアーに参加した方たちは、12歳の私と同じように、それぞれの地域を見つめ直し、まちづくりの一步を踏み出すきっかけにして頂ければ幸いです。

ひらけ！こころの目

私からのメッセージ



パントマイム役者 チカパン

私の職業はパントマイムを演じることです。

パントマイムの羽でいろんな土地に飛んでいきます。観客は幼児からお年寄りまでほんとうに様々です。

パントマイムは言葉ではなく身体でおしゃべりします。気持ち、状況などを身体で表現します。

身体の言葉というのは豊かで非常にユーモラスです。その名優はまさに小さな子どもだと思えます。まだ多くの言葉を知らない小さな子どもが飛んだり、跳ねたり、回ったりするさまは見ていて本当に微笑ましい。小さいながらも心に感じた、もういっぱいになった気持ちを表現したくて動いてしまう。そんな純粋な、透明な動きに憧れてしまう。

子どもは私の師匠だな、と思うのです。パントマイム体験などではシャイで動けなくても、大好きなお母さんやお兄ちゃんの前ではたくさんの素敵な身体のおしゃべり、しているはずですよ。

また先日、ある介護老人施設で上演がありました。小さな会場に出入り口はひとつ。高齢者の方はゆっくりゆっくりお手洗いにいかれます。

かたつむりのような時間の流れの中でなかなかこちらの準備が進みません。窓の外を見れば隣の小学校の校庭で元気に走り回る子ども達。ちょっとシュールな気持ちになりました。元気な子ども達と静かなご高齢の方達。時間の流れも呼吸もまったく違う。こちら心も澄まして、お年寄りの時間と呼吸を合わせます。

私の演技にはいつもとは違う「間」が生まれます。小さな子どももお年寄りも、パントマイムでよく笑ってくれます。違うところで、同じところで。

年齢も性別も国籍もぽ〜んと飛び越えるパントマイム。インターネット、ゲームにスマホ…デジタルな時代にパントマイムなんてもっともアナログ。時代はスピードを上げてどんどん変化していますが、各地で上演していて感じます。

見えないものを想像する喜びは変わらない。

どんなに物や情報が溢れても、それだけでは幸せにはなれないということを実はみんなよくわかっているのだよ。

だって私…最近、忙しいんですもの！

子どもたちのもう一つの居場所として ～サマースクール開講～

子どもたちがもっと日常的に集まれる居場所がほしい・・・そんな思いから立ち上がった小学生の居場所事業。

2014年7月24.25.26日 8月18.19.20.21.22日 時間:
9:30～16:30 のべ51人参加
場所:市川子ども文化ステーション北地区事務所

これまで培ってきた特色を生かした居場所を作り

子どもが安全に楽しく集団遊びを体験できるところ。長期休みでもゲームづけにならない日々をと切に願う働くママたちや、新しい事業に挑戦していきたいという若い会員さんも積極的に関わり実現に向けて準備しました。そこには子どもの権利条約に沿った子ども観を持つスタッフが、子ども主体で自己肯定感を育む場としての「居場所」をめざしてかかわっています。

まず 冬休み2日間と、春休み3日間を開講

子どもたちで相談して決めたおやつ作り、トランプ、ボードゲームなどのルールも進化させ、ゲーム機無しでも夢中になれる遊び場を子どもたち自身が作りました。親のニーズに応じて朝1時間の学習も入れましたが、「やったー！あってるよ」と高校生、青年が最後まで付き添い、励みに。一般からの参加もあり、昼食メニューをみんなで考えて作るなど、家庭ではなかなかできないことを体験。何して遊ぶ？鬼ごっこから、ケンパや田の字…ガバティ、思ったことを何でも言ってみても大丈夫、そんな安心感が生まれていました。

いよいよサマー、生活のプログラムを子どもで決める

○買い出しはドラマだ。消費税も計算しつつレジへ行く、予算オーバーで買い直し。これを何度繰り返したとか。最後は25円おつりで「やったー！」。次の日「僕、電卓持ってく！」しかし、レジはやっぱり遠かったのです。電卓なのに何で毎回答が違うんだ？！
○みちくさはサイコー。川沿いの道、「亀がいる」「潜った！」「親子亀だー」、やっと歩き出すと「あ、鯉」「でかい！」目的地の公園は、こんなに遠かったかしら？
○演技派、王様じゃんけん。1年生でも「さがれ！」、お辞儀を忘れた年上の子に堂々の王様ぶり、表現力の才能ばっちり。
○夏のおやつ、にじいろかき氷作りが一番！

○素手で虫を捕まえられる子はヒーロー。蟬のぬけがらを見て種類を教えてくれるA君は、実は生きている蟬に触れない。だからおしゃべりだったのね、初めて触ることに挑戦したよ。

<参加者の感想から>

- ・学校では友達と遊ぶのに気を使うことが多くて疲れるけど、そんなこともなく思いっきり遊べて楽しかった。(小5女子)
- ・大学生のお兄さんと一緒に遊んだよ(小1男子)
- ・校区も違う異年齢間でこんなにも打ち解けるのかと、お迎えに行ったときにびっくりしてしまいました。伸び伸びする次男の姿を見て、普段からもっと自由にのびのびしたかったのだな～と感じました。(母親)



自分でやりたいことを見つけられる子になっていた

決まったカリキュラムはないので、やろうと言われても一緒にやるか別のことをするか自分が決めなくてはなりません。「めんどくさ」が口癖の子が一番あーでもないこーでもないと考えたり…、メニュー決めでも人の話を聞いて自分の意見を変えたりして、今日はこっちだけど明日はあっちでやってみようなど、可能性も広がりました。大きな喧嘩や対立はありませんでしたが、生活の中には違いがはっきりするシーンがたくさんあります。何をやるかが目的ではなく、集団になることで違いにぶつかり、迷ったり決めたりする体験を目的にしています。スタッフは、子どもの意思に沿い、子どもと考えます。「ミニいちかわ」と同じですね。
(特)市川子ども文化ステーション副理事長 買場都明)

編集後記

市町村行政訪問での情報交換で、年間出生児が300人でもその市内には産科がなく、安心して子どもを産む第1歩が整っていない実態を聞きました。また、貧困や虐待など子どもが育つ環境、子育てする家庭のしんどさが伝わってくる話も聞きました。子どもと子育てのリアルな実態は、まさに地域課題そのものです。(綿貫のばら)